

「道内の感染状況等について（道案）」に対する主な意見

1 有識者・専門家等の意見

1-①

道内の感染状況を考えると、従来までとは違い、働いている世代の市中感染が増えている。これらの人に外出抑制を効果的に行う方法が必要と考える。テレワークや時差通勤、まとまった夏休みの取得など、市中の人出を減らし、出勤抑制をはかる対策を今一度検討してほしい。

また、今後、ワクチン接種の拡大に向けて若い世代に正確な情報を発信して接種を進めてほしい。

1-②

夏の再拡大防止特別対策の下でも札幌市内の感染拡大は、考察の通りより警戒すべき状況にあり、効果的な人流抑制をはかるためにも、政府はまん延防止等重点措置の早期適用を決断すべき。

その上で、来道者の感染防止対策はもちろん、来道そのものを減らすよう、政府として全国へメッセージを発するよう要請すべき。

1-③

対策に対する道民の共感が低下する中で、報道を通じて公表される感染状況を示す指標の取扱いは重要であり、特に現時点においては、国の「まん延防止等重点措置」あるいは「緊急事態宣言」の適用を要する水準まで感染状況が悪化してきていることを道民の皆様知って頂くことが大切であると考え。

このため、本部会議を通じて報道機関に提供される感染状況を評価する指標については国の基準に統一すべきであり、今後、対策の実施を判断する上で重要となる医療の逼迫状況については、確保病床数が変動することを前提とした病床の使用率が適正な指標であり、一般の方々にも逼迫度合いが伝わり易いと思われるので統一すべきと考える。

1-④

内容については現状を的確に指摘されていると思う。

今後、道外からの来道者が増えそうなので、新規感染者がさらに増える可能性が高いと予測される。

ワクチン接種には協力する準備は整っているので、ワクチンの供給を宜しく願います。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

年代別感染者数で、30歳代以下の割合が増えているが、若い人は、感染して無症状や軽症の場合が多いということが、人流の増加や基本的な感染予防対策を行わないことにつながり、感染者増加の要因となっているものと思われる。

「無症状だから」、「感染しても軽症だから」いいということではなく、その人が感染をすることで、家庭や会社、学校等への感染が広がってしまいうということをもっと徹底して周知すべき。

2-②

まん延防止等重点措置について、こういった措置が取られるのかを事前に道民に周知し、人流の抑制などにつなげるべき。

2-③

札幌駅周辺、すすきの駅周辺の人出は、緊急事態宣言前、まん延防止等重点措置前、夏の再拡大防止特別対策前との比較において減少していないことを十分考慮した上で、新たな対策を検討するべきと考える。